

文選ノ注ニハ、水神ノヲヅルトリナリ、水中難ヲサランガタメニ、此ノ鳥ノカシヲツクル由シ見エタリ、今ハヒトヘニ鳳首ヲツケテ、鷁首トナヅクル歟、

〔和漢三才圖會三十四〕船略○中

龍頭鷁首 貴人船前、畫龍及青鷁者、鷁能所以防水鳥、皆欲船不溺、波浪謂之龍頭鷁首、又曰舟爲艦亦此意也、鷁見于水禽部晉王濬造大艦、方百二十步、受二千餘人、建樓開門、馳馬往來、畫鷁佐獸于船首、以厭水神、其壯大自古未曾有、如此也、乃浮江攻吳、以大勝之、

〔紫式部日記〕其日新しく作られたる舟どもさしよせて御覽す、龍頭鷁首のいけるかたち、思ひやられてあざやかにうるはし、

〔榮花物語音十七〕御堂供養、治安三年七月十四日と定めさせ給へれば、よろづをまづ心なく、よるを晝におぼし營ませ給ふ、略○中 大門いらせ給ふ程に、左右の舟の樂、龍頭鷁首舞ひ出でたり、

〔榮花物語御賀二十〕治安三年十月十三日、殿の上の御賀、藤原道長妻倫子なり、略○中 さまぐの事どもあるべき限りにて、ふねの樂、龍頭鷁首こぎいでたり、

〔續世繼一〕がねの御法〕治暦元年九月廿五日に、高陽院にてこがねの文字の御經、みかど、冷泉御みづからか、せ給ひて、御八講行はせ給ひき、略○中 五卷の日は、宮々上達部殿上人、皆さ、げもの奉りて、たつ鳥のから舟池にうかびて、水の上に聲々まらべあひて、佛の御國うつし給へり、

〔台記〕仁平三年正月廿六日壬戌、今日於東三條再行大饗、廿七日癸亥、撤尊者已下辨已上膳、略○中

樂船雜具借用平等院、

鷁船四艘、龍頭二艘、組之、鷁首二艘、組之、借桂河、鷁飼、鷁飼

板敷、木工寮

筵敷、掃部寮